

# あさのちゃんねる

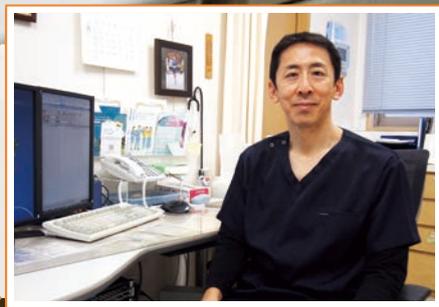
vol.45

2023年 春号  
(年4回発行)

特集

## 「患者さんに寄り添う伴走者！ 多職種チームによるリハビリテーション」

リハビリテーション科部長  
井戸 医師 インタビュー



### 連携登録医のご紹介

## キジマ あたまのクリニック

院長 木嶋 保 先生



暖かい日が  
増えてきました★  
どこかお出かけ  
しようかな？

病院の理念

救急から在宅まで、地域の医療を守り支える病院を目指します。

病院の方針

【地域連携】医療・介護・福祉が一体となった切れ目のない医療サービスを提供し、地域医療の充実に努めます。

【救急医療】断らない救急医療を目指します。

【予防医学】健康診断を推進し、病気の予防・早期発見に努めます。

【チーム医療】患者さん中心のチーム医療を実践し、安全・安心で質の高い医療の提供に努めます。

【人材育成】次代の医療を担う信頼される人材の育成に努めます。

特集

リハビリテーション科部長インタビュー

# 患者さんに寄り添う伴走者！ 多職種チームによる リハビリテーション

ケガや病気によってダメージを受けた身体の機能を回復させ、「自分らしい生活」を取り戻すために行うリハビリテーション。多職種連携型のリハビリテーションについて、リハビリテーション科部長の井戸医師が解説します。

## 早期のアプローチが 回復や社会復帰につながる

かつては、「病気やケガをした後は、しばらく安静に」と言われた時代もありました。しかし、必要以上に安静にすることで、筋肉が衰えたり、認知機能が低下したりする弊害があるため、現在の医療現場では病状を見ながら早期にリハビリテーション(以下、リハビリ)を開始することが主流になっています。当院のリハビリテーション科は、急性期から回復期において集中的にリハビリを行い、身体の機能回復や社会復帰を促しています。リハビリテーションセンターを拠点に、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、介護職、社会福祉士、薬剤師、栄養士などが連携し、チームによるアプローチを行っていることが特徴です。担当医がチームの指揮を執り、多職種みんなで患者さんの目標設定を共有し、それに向かってそれぞれが役割を果たすことで、細やかなリハビリを提供することができます。担当医は患者さんの動作をリハビリテーションセンターで直接確認し、カンファレンスではその都度、多職種が状況を報告・確認することで状況に合ったリハビリを行うことができます。

リハビリテーション科部長

いど かずのり  
**井戸 一憲**

日本リハビリテーション学会臨床指導医

日本リハビリテーション医学会専門医

日本脳神経外科学会専門医

日本医師会認定産業医

### 座右の銘

医療では、最初と最後を特に大事に

### 健康法

愛犬の散歩を兼ねたウォーキング



## 「急性期」「回復期」の リハビリの役割

当院のリハビリテーション科には、「一般病棟」（急性期と地域包括ケア）、「回復期病棟」、「訪問」を対象にした3つの部門があります。一般病棟での急性期リハビリは、病気やケガで入院した患者さんが対象です。治療と並行しながら早い段階でリハビリを開始することで、入院日数の短期化、身体機能の低下防止、肺炎といった術後の合併症の予防を目指します。特に高齢者の場合、体調不良で1日寝込むと、身体機能の回復までに3日以上かかると言われ、超早期のリハビリが望まれます。また、リハビリというと身体を動かす訓練をイメージされるかもしれませんが、肺炎予防のための嚥下訓練もリハビリの領域で、主に言語聴覚士が担当します。

急性期の治療がひと段落して状態が安定した後、医師が必要と判断すれば回復期病棟でさらにリハビリを行います。対象となるのは、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者さんで、当院の一般病棟から移られる方もいれば、他院から転院される方もいます。治療が優先の一般病棟とは違い、回復期病棟で過ごす生活そのものがリハビリであり、身体機能の障害や日常生活に必要な動作能力の向上を目指します。さらには退院後を見据え、実際に家屋を訪問して生活環境の調整や介助指導をし、自動車運転の再開が可能かどうかの評価を行うなど、地域生活へのスムーズな復帰を支援します。

## 退院後の生活を見据えて ご本人とご家族に寄り添う

当院には、在宅・施設復帰に向けてケアを行う地域包括ケア病棟を備えており、さまざまな疾患、病状の方が入院しています。退院のためにリハビリが必要な患者さんには入院早期から退院後を見据えた情報を収集し、生活に必要な能力・動作を取り戻すためのリハビリを行います。高齢の患者さんが多いため、認知症の重症化予防が必要な場合はそのプログラムも提案します。地域包括ケア病棟の医療チームに私たちリハビリスタッフも参加し、情報を共有することで、病棟でのリハビリをより効果的にしています。また、ケアマネジャーと連携しながら福祉用具や家屋環境、介護保険サービスの提案、退院後の自主運動や食事など生活指導も行っていますので、ご相談ください。

退院後も療養生活を送る患者さんで、医師とケアマネジャーが必要と判断した場合、自宅や施設で訪問リハビリを受けることができます。対象は、要介護認定を受けている方や、病気のために医療依存度が高い方（医療保険内）などです。当院を退院された方なら、スタッフ内で状況の共有化ができているため、訪問リハビリへスムーズに移行できます。退院後、患者さんは住み慣れた環境に戻り、実際の生活場面に沿ったりリハビリを行うことで身体機能を上げ、家事や趣味といった日常動作の練習を行います。ご家族への介護指導も行い、ご本人とご家族がその人らしい生活を送れるようサポートします。



## ERの現場で学んだ チーム医療の重要性

数十年前、福井県立病院に北米型 ER を導入した寺澤秀一先生という有名な医師がいるのですが、当時、私は医師としてその現場に立ち会っていました。そこで学んだのは、医療従事者たちが連携する重要性です。他の専門医にも判断を仰ぎ、連携することで患者さんにベストな結果がもたらされることを目の当たりにし、今の現場でもそのことを肝に銘じています。

リハビリの目標設定は人それぞれですし、後遺症が残ってしまう方もいるので、自宅や施設に戻ってからの生活そのものがリハビリの延長になります。これからどう生活するのか、健康になるためにどう過ごせばいいのか、それを考えることも含めてリハビリです。目標に向かって私たちスタッフが患者さんに伴走しますが、一番大事なのはご本人とご家族の理解、そして前向きな気持ちです。当センターができる限りお力になりますので、困りごとなどお気軽にご相談ください。

## 腰が痛い方の日常生活の注意点について

### 腰痛の原因

#### 姿勢

生活の何気ない動作でも腰に大きな負担をかけていることがあります。特にかがむ姿勢や物を持つ姿勢などは腰痛を引き起こしやすいといわれています。また、骨が弱い方は勢いよく座ることで圧迫骨折が生じることもあります。



#### 腰の使い過ぎ

軽い負荷の動作でも腰を使いすぎると腰痛を悪化させます。

#### 肥満・太りすぎ

おなかの極端に出ることで腰を常に伸ばしているような状態になるため慢性的に腰に負担をかけていることになります。



#### 老化による筋力の低下

老化により筋力が低下することで腰を支えていた筋肉が傷みやすくなっています。筋力トレーニングで筋肉を多くするなど予防が必要になります。

このほかにも原因は様々ありますので、腰痛が改善しないときは医療機関を受診しましょう。

### 生活面の注意点について

- 背中や腰に負担や痛みが出る動作は避けるようにしましょう。もし痛みを感じた場合は無理せず休みましょう。
- 起き上がり動作は布団よりベッドの方が背中や腰の負担は少なくなります。
- 重いものはなるべく持たないようにし、周囲の方の協力も得ましょう。
- 骨密度の定期的な検査もオススメです。

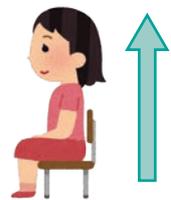


### 姿勢や動作時の注意点について

腰痛予防のため、背中や腰に負担がかからない動作や姿勢を心がけましょう。

#### <座るとき>

- 背中を伸ばして姿勢よく座りましょう！
  - ・食事や更衣、家事動作、余暇の時なども気をつけて下さい。
  - ・背すじを伸ばして座り、腹筋や背筋の筋力を維持しましょう。
  - ・勢いよく座らないようにし、ゆっくり腰掛けましょう。



#### <物を持つとき、持ち上げる時>

- 立った姿勢から腰だけをまげて床のものを持ち上げないようにしましょう。膝をまげて、体に物を近づけることがポイントです。
- 物を持つときは体に近づけて持ちましょう。
- 手持ちよりリュックサックや肩掛けカバンなどの利用をオススメです。
- シルバーカーなどに荷物を入れて運ぶ方法もあります。



#### <そのほか>

- 家事をする時も背筋を伸ばして行いましょう。
- 雑巾がけは避け、掃除機やフローリングワイパーなどの使用をオススメです。
- 寝返る時、振り向く時は上半身だけを捻じらず、全身を動かすようにしましょう。
- 体を反らす姿勢は避けましょう。

## 連携登録医のご紹介

今回は、河北郡津幡町の

『キジマ あたまのクリニック』をご紹介します。  
いたします。

当院は2006年に木島脳神経外科クリニックとして、津幡町で開業しています。MRIの迅速診断、各種の専門医(日本脳神経外科学会、日本頭痛学会、日本認知症学会)の特性を活かして、日々診療を行っています。中でもライフワークとして取り組んでいるのが頭痛診療です。頭痛で悩んでいる人は想像以上に多く、当クリニックには年間1500人以上の頭痛患者さんが訪れます。頭痛に限らず脳卒中や認知症など頭の疾患について気軽に受診してもらう為、2023年4月1日から「キジマ あたまのクリニック」に改名しております。

浅ノ川総合病院には、光田先生をはじめ、金沢大学脳神経外科の医局時代にお世話になった先生方も多く、スムーズな医療連携をして頂き感謝しております。今後とも連携病院としてお世話になりますので、よろしくお願いいたします。



クリニック外観

### 連携登録医とは

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。



院長 木嶋 保 先生

## キジマ あたまのクリニック

診療科：脳神経外科、脳神経内科  
専門医資格：日本脳神経外科学会 専門医  
日本頭痛学会 専門医・指導医  
日本認知症学会 専門医・指導医  
日本旅行医学会 認定医  
日本医師会 認定産業医  
略歴：東京医科大学卒  
金沢大学 脳神経外科学教室 入局  
氷見市民病院  
恵寿総合病院  
石川県立中央病院  
国立金沢病院  
木島病院

### 診療時間

|             | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 9:00~12:30  | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | / |
| 14:00~18:00 | ○ | ○ | / | ○ | ○ | / | / |

休診日：日曜日、祝日、水曜午後、土曜午後

住所：〒929-0342  
石川県河北郡津幡町北中条2丁目33番地  
電話：076-289-7430  
駐車場：あり  
アクセス：IRいしかわ鉄道「津幡駅」から徒歩10分



## 感染管理認定看護師に聞きました!

### Q1：認定看護師について教えてください

認定看護師とは、“ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有する者”として、日本看護協会の認定を受けた看護師の事を言います。認定看護師は熟練した看護技術と知識を用いて専門性を発揮し、3つの役割「実践・指導・相談」を果たすことで看護の質の向上に努めています。

当院では7分野12名の認定看護師がそれぞれ専門性を発揮し、患者さんへよりよい看護を提供できるよう日々活動しています。



手術部所属 森 隆平

### Q2：感染管理認定看護師としてどのような活動をしていますか？

感染管理認定看護師の役割は、疫学、微生物学、感染症学、消毒と滅菌、関係法規などに関する専門知識を基盤に、施設の状況にあった効果的な感染管理プログラムを構築し、病院に関わる全ての人を感染から守ることにあります。特にコロナ渦における感染管理認定看護師はその専門性を発揮し、当院に出入りする全ての関係者を感染から守るための活動を行ってきました。世間はwithコロナ、アフターコロナが話題になっていますが、まだまだ各医療機関における新型コロナウイルスの脅威は完全には消えていません。新型コロナウイルスだけではなく、われわれ感染管理認定看護師はこれからも変わらず院内感染対策を行っていきます。



### Q3：認定看護師の資格取得について教えてください

認定看護師となるためには、5年以上の実務経験や病院からの推薦などが必要となります。さらに資格取得のための教育機関へ7カ月～1年間は通わなければならない、その間は就業につくことが困難になります。そのため、当院では資格取得の過程で発生する学費や図書費、交通費などの費用補助や、期間内給与の最低保証など、支援を行っています。教育機関で学ぶ内容は多岐にわたり、その都度試験もあります。入学試験や卒業試験、最終的には資格取得のための認定審査があるため、非常に多くの時間を勉学に割く必要があります。

認定看護師取得者が増えることは患者さんへ提供する看護の質の向上につながります。家庭を持つ方は家族の支援も必要となりますが、少しでも資格取得を希望する方が安心して受講できるように当院としても様々な支援体制がとられています。



# 新任医師紹介

今年4月に赴任された  
医師を紹介します！



内科 まつばら たかお  
**松原 隆夫**

専門は循環器内科です。高齢社会となり、多くの患者さんが何らかの循環器系障害を合併しているものと思います。お困りの際はお気軽にお声がけいただければ幸いです。

専門分野／循環器内科



内科 おおもり あい  
**大森 亜衣**

私は主に糖尿病や高血圧などを専門に診療させていただいております。患者さんが安心して訪れる場所でありたいと思っています。最善を尽くします。よろしくお願いします。

専門分野／内分泌代謝内科



内科 やまむら こういち  
**山村 孝一**

若輩者ですが、頑張りますのでよろしくお願いします。

専門分野／呼吸器



内科 みやなが たつひと  
**宮永 達人**

地域の皆さんのお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いします。

専門分野／リウマチ膠原病



内科 むらかみ さとし  
**村上 慧**

患者さん第一に、地域医療に貢献できるように頑張ります。よろしくお願いします。

専門分野／消化器



腎臓内科 しらかわ ともひこ  
**白川 智彦**

診療科は腎臓内科ではありますが、腎臓以外の領域でも勉強させて頂きたいので、お気軽にご相談ください。

専門分野／腎臓



腎臓内科 やまのうち ひろたか  
**山之内 啓貴**

地域医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

専門分野／腎臓



外科 ふじわら ゆうた  
**藤原 優太**

患者さんが安心して治療を受けれるよう心がけています。よろしくお願いします。

専門分野／消化器外科



形成外科 みった ようこ  
**三田 要子**

患者さんに寄り添い、丁寧な診察を心がけています。キズやできものなど、お気軽にご相談下さい。

専門分野／形成外科



耳鼻咽喉科 かのう わたる  
**加納 恒**

丁寧な診察ができるよう心がけています。よろしくお願いします。

専門分野／耳鼻科・頭頸部外科



産婦人科 いわだれ じゅんぺい  
**岩垂 純平**

標準治療から高難度新規医療まで大学や県立病院と連携して治療にあたらせて頂きます。

専門分野／婦人科悪性腫瘍



## 地域と気軽につながるオンラインイベントの取り組み

コロナ禍による地域の方々とのコミュニケーション不足に対し、地域連携部では、地域の方々と「Zoom」を用いたオンラインイベントの取り組みを行っています。

当院は、2018年10月に厚労省より石川県の「てんかん診療拠点機関」として選定されました。全国28ヶ所ある拠点機関のひとつです。

当院が事務局を務める石川県てんかん治療地域連携協議会の事業として、医療従事者を対象とした「地域医療連セミナー」と県民を対象とした「県民公開講座」を開催しました。

石川県てんかん治療地域連携協議会主催

### てんかん地域医療連携セミナー

～てんかん治療の取り組みと今後の課題～

- 開催日時 2023年3月4日(土) 15:00～16:30
- 開催方式 ハイブリッド方式(現地開催とウェブ開催の併用)
- 開催場所 現地開催 金沢商工会議所 2階大会議室  
〒920-8639 金沢市尾山町9-13  
TEL:076-263-1151  
ウェブ開催 Zoomによるオンライン参加
- 参加対象 てんかん治療に関わる医療・介護・福祉従事者等(要申込)
- 参加費用 無料
- 開催内容 座長 浅ノ川総合病院てんかんセンター 小児科 中川 裕康 先生  
《講演》ILAE分類の意義と限界を考える  
演者 東京慈恵医科大学 小児科学講座 講師 日暮 憲道 先生

主催 石川県てんかん治療地域連携協議会 共催 公益社団法人日本てんかん協会(てんかの会) 石川県支部



県民公開講座

### てんかんと共に生きる

～てんかん患者さん、そのご家族の種々の疑問に答える会～

- 開催日時 2023年3月5日(日) 10:00～11:30
- 開催方式 ハイブリッド方式(現地開催とウェブ開催の併用)
- 開催場所 現地開催 金沢商工会議所 2階大会議室  
〒920-8639 金沢市尾山町9-13  
TEL:076-263-1151
- 参加対象 どなたでも参加できます。(要申込)
- 参加費用 無料
- 開催内容 総合司会 浅ノ川総合病院 てんかんセンター センター長 廣瀬 源二郎 先生  
《講演①》 てんかんとはどんな病気? 浅ノ川総合病院 てんかんセンター 脳神経内科 紺谷 智 先生  
《講演②》 てんかんの子を支えるために知りたいこと 浅ノ川総合病院 てんかんセンター 小児科 中川 裕康 先生  
《講演③》 てんかんの方を支援する様々な社会保障制度 浅ノ川総合病院 地域連携部医療福祉相談室 社会福祉士 松多 岳史 先生  
《質疑応答コーナー》 応答者 浅ノ川総合病院てんかんセンター 医師、看護師、社会福祉士

主催 石川県てんかん治療地域連携協議会 共催 公益社団法人日本てんかん協会(てんかの会) 石川県支部



地域の医療機関が連携することで、てんかん治療の質の向上ならびに必要な支援が包括的に提供される地域づくりを目指しています。また、地域の方々がこの病気を正しく理解されることで、てんかん患者さんが気持ちよく日常生活を送ることが出来るよう努力してまいります。

## お知らせ

### ✿ 創立記念日休診のお知らせ

令和5年6月1日(木)は創立記念日につき、外来診療を休診します。(救急の場合は救急外来で対応します)

お問い合わせ先

広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。  
TEL:076-252-2101(代) URL:<https://www.asanogawa-gh.or.jp/>  
メールアドレス:kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp

